

小矢部型地域愛着形成プログラムの開発に向けた基礎研究

(小矢部市)

提案・指導教員 富山大学 芸術文化学部 講師 藪谷祐介

(参加学生) 谷内遥香(4年)、亀山文音(4年)、北野まつ葉(4年)、北島陽貴(4年)、
有原千尋(修士1年)

1 課題解決策の要約

本研究では、人口の流出抑制及び転入促進に対する有効な施策を提案することを目的に、高校生を対象としたワークショップと、市民を対象としたアンケート調査を実施した。高校生を対象としたワークショップでは、高校生の地域愛着醸成のためには、帰り道に地域の多世代の人と交流ができ、高校生の居場所ともなりうる場をつくるのが効果的である可能性を示唆した。さらに、小矢部型地域愛着形成プログラムを開発する上では、ただプログラムを用意してそこに高校生に参加してもらうという提供型の方法ではなく、高校生を対象としたワークショップを開発のプロセスに取り入れ、企画段階から高校生の関わりをつくることで、主体性を育てながら進めていくことが重要であることを明らかにした。また、小矢部市の総合計画で定められた各政策への市民満足度がシビックプライドに与える影響をアンケート調査によって検証した結果、官民協働による自治体経営、魅力ある都市空間の形成と観光振興、学力や心身を育む教育の推進等の政策への満足度を向上させることで、シビックプライドが醸成するという因果関係を統計的に明らかにした。さらに、若者のシビックプライドを醸成することが、人口減少時代における人口定住に向けた自治体施策として重要であることを指摘した。

以上の知見を生かし、石動駅前商店街等の中心市街地を対象とした豊かな都市空間の形成に寄与すると考えられる場づくりを、高校生が市民と協働し、企画・実践する地域課題解決型教育プログラムを提案した。

2 調査研究の目的

小矢部市では若年層、特に女性の人口流出が課題であり、転入促進のための有効な施策が求められている。特に、大学への進学を機に市外に転出し、その後 U ターンしないことが課題として挙げられている。

これまでの研究で、地域への強い愛着は居住願望へとつながることが報告されており¹⁾、愛着心の醸成が定住および U ターン促進において重要であると考えられる。愛着の醸成に影響を及ぼす要因としては、景観、歴史的風景、住民の人柄、住民との交流、祭り・イベント、来訪者との交流、外部との比較、子どもの存在、環境の変化が挙げられる²⁾。また、地域によって各要因の影響度は様々であり、小矢部市で暮らす人々特有の愛着形成メカニズムを明らかにすることによって、小矢部市の環境や地域資源を生かした「小矢部型地域愛着形成プログラム」の開発が可能であると考えられる。そして、そのプログラム開発は人口の流出抑制及び転入促進に対する有効な施策となり得ると考えられる。

本研究者らは令和 2 年度地域課題解決事業において、小矢部市内の高校に通う高校生を対象に、地域愛着形成メカニズムを明らかにするための調査研究を実施し、高校生の通学時における人や自然との地域接触が地域愛着を醸成するという因果関係を統計的に明らかにした³⁾。本事業では、その結果を踏まえ、高校生を対象としたワークショップを実施することで、「小矢部型地域愛着形成プログラム」のアイデアを導出する。しかしながら、「小矢部型地域愛着形成プログラム」の実施には高校生のみならず現在小矢部市で居住する 18 歳以上の市民との協働が必須であり、加えて、小矢部市が実施する政策が市民の地域愛着を含めたシビックプライド(市民としての誇り)にどのような影響を及ぼしているか明らかにすることによって、より有効性の高い「小矢部型地域愛着形成プログラム」が開発が可能になると考えられる。

そこで本研究では、①小矢部市内の高校に通学する高校生を対象にワークショップを実施することで、「小矢部型地域愛着形成プログラム」の考案にあたっての知見を得る(3 章)。また、②小矢部市の各政策に対する市民満足度が市民のシビックプライドにどのように影響しているかを明らかにすることによって、「小矢部型地域愛着形成プログラム」の開発に向けた基礎的知見を得る(4 章)。そしてそれらに基づいて、③人口の流出抑制及び転入促進に対する有効な施策を提案する(5 章)ことを目的とする。

3 高校生を対象としたワークショップ

3-1 ワークショップの概要

「小矢部型地域愛着形成プログラム」の考案にあたっての知見を得ることを目的に、小矢部市内の高校に通学する高校生を対象にワークショップを実施した。具体的には、①高校生が考える小矢部の魅力や課題、②高校生が小矢部で取り組みたいことや高校生が考える小矢部の将来像について、3グループに分かれて議論した。富山大学芸術文化学部学生3名がファシリテーターを担当した。開催概要は以下の通りである。

日時 2021年10月2日(土) 13:00-15:00

場所 小矢部市民交流プラザ(小矢部市城山町1-1)

参加者数 石動高校生 9名

プログラム構成

第1部 「小矢部の課題と魅力を共有する」

第2部 「小矢部の将来を思い描く」



おやべのまちを考へルかいぎ
おやべルかいぎ

ワークショップ 石動高校生 × 富山大学生
「小矢部の未来を考える」

2021.10/2 Sat.
13:00 - 15:00

小矢部市民交流プラザ
小矢部市城山町1番1号

参加費無料 | 定員 15名
申込方法は裏面にて | 当日マスク着用
ご協力をお願いします

主催 小矢部市
共催 富山大学芸術化学部藪谷研究室
お問い合わせ 電話 0766-25-9200
メール yabutani.lab@gmail.com

図 3.1 ワークショップのチラシ（表面）

おやべのまちを考へルかいぎ
おやべルかいぎ

予約方法 ▶ メールにてご予約をお願いします

件名に「おやべルかいぎ参加申し込み」を
本文に ①お名前 ②お電話番号
③メールアドレス ④学年学科
をご記入下さい

メール ✉ yabutani.lab@gmail.com

ワークショップ
「小矢部の未来を考える」

自由な発想、発言のもとで
一緒に小矢部の未来を考えよう！

プログラム

第1部 「小矢部の魅力・課題を共有する」

- 13:00-13:05 全体の説明
- 13:05-13:10 グループワーク①の実施内容の説明
- 13:10-13:15 ミニレクチャー「アンケートから見た小矢部」
- 13:15-13:50 自己紹介、グループワーク①「小矢部の魅力・課題を共有する」
- 13:50-14:00 グループワーク①の発表
- 14:00-14:10 休憩

みなさんが考える小矢部の
魅力や課題を共有して小矢
部の今について考えよう

第2部 「小矢部の将来を思い描く」

- 14:10-14:15 グループワーク②の実施内容の説明
- 14:15-14:45 グループワーク②「小矢部の将来を思い描く」
- 14:45-14:55 グループワーク②の発表
- 14:55-15:00 総括

第1部で考えたことを参考
にして、小矢部で取り組み
たいことから小矢部の将来
を考えよう

図 3.2 ワークショップのチラシ（裏面）

3-2 ワークショップの結果整理

第1部「小矢部の魅力・課題を共有する」の結果を表3.1に整理した。

魅力として挙げられたもののうち、3班で共通していたのは、「メルヘン建築」、「自然の豊かさ」、「地域の人が優しい（商店街でのあいさつなど）」、「クロスランド小矢部」の4つであった。また、2班に共通していたのは、「祭り（津沢夜高あんど祭など）」、「イルミネーション」の2つである。メルヘン、自然、祭り・人は、小矢部市シティプロモーション戦略プラン（令和2年度～令和6年度）においても市のイメージとして挙げられたものであり、これらは年代を問わず、市の魅力として認識されていると考えられる。

一方、課題として挙げられたもののうち、3班で共通していたのは、「交通」、「虫や動物が多い」の2つであった。「交通」では、電車がうるさい、信号が細かい間隔が多い、路駐によって通行しにくい、道がガタガタ、高校までの坂、道が暗いなどが挙げられており、交通の不便さ以外に、通学時の安全性についても不安を抱いていると考えられる。また、2班に共通していたのは、「店の不足（飲食店や遊ぶところなど）」であった。

次に、第2部「小矢部の将来を思い描く」では、第1部で出された魅力をより高めたり、課題を解決したりするためにどうするかを話し合った。その結果を表3.2に整理した。

2班に共通していたのは、「高校生の寄り道できる場所や遊び場」、「街灯を増やす」、「商店街の発展（コミュニケーションスペースをつくるなど）」、「交通を便利に」、「小矢部の紹介（市民との協働など）」、「自然を生かした施設（カフェなど）」、「メルヘン建築（店の出店やフォトスポットなど）」についての7つであった。「高校生の寄り道できる場所や遊び場」では、勉強できるスペースや小中高生が気軽に集まれるような飲食店、ゲームセンター、ボウリング、カラオケ、映画館などが挙げられた。

第2部の結果をみると、「高校生の寄り道できる場所や遊び場」、「商店街の発展（コミュニケーションスペースをつくるなど）」、「小矢部の紹介（市民との協働など）」など、地域におけるコミュニケーションの場や高校生が集まることのできる場を欲していることがわかる。第1部で「地域の人が優しい」が挙げられたことと合わせて考えると、商店街において高校生と地域の人が交流するためのスペースを設けるが効果的である可能性がある。

表 3.1 第1部で挙げられた「小矢部の魅力・課題」の整理

	魅力	課題
A班	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の雰囲気はエモい レトロ感があってエモい/通学中メルヘンな建物が見えるのが良い ・ イベントが楽しい みこし祭が楽しい/クロスランドの花火大会が盛り上がる ・ 地域の人との関わり いろいろな人から話しかけてもらえる(あいさつなど)/人が優しい ・ 未分類 自然が素敵 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通についての課題 電車がうるさい/信号が多い(細かい感覚である)/道に車を停めるのをやめてほしい(通行しにくい)/道がガタガタ/駐車場が欲しい ・ 飲食店の不足 コンビニだけでなく飲食店を増やしてほしい/学校の横に売店とかほしい ・ 臭い 工場の前を通るときに嫌な臭いがけっこうするので、気を付けてほしい/野焼きをやめてほしい ・ 未分類 ハチが多い
B班	<ul style="list-style-type: none"> ・ メルヘンな建物 メルヘン建築/商店街が充実している ・ 娯楽施設の充実 アウトレットがある/観覧車がある/クロスランド(タワー)がある/イルミネーションがきれい ・ 魅力的な駅 駅に図書館があること/駅がきれい ・ 地域のあたたかさ 地域の方が優しい ・ 自然の豊かさ 自然がとてもいい/自然が豊か ・ 未分類 ホッケーが有名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通が不便 交通が不便/高校までの坂/道が暗い ・ 店の減少 店が潰れている/遊ぶ所が少ない ・ 未分類 勉強ができるスペースが少ない/高齢化
C班	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな自然 自然が豊か/山からの景色が綺麗 ・ クロスランド小矢部 イルミネーション/空中カフェ ・ 動物とふれあえる場所 稲葉山カフェレストラン/動物が多い/稲葉山ふれあい動物広場/稲葉山牧場 ・ 観光 かわいいゆるキャラ/観光に力を入れている ・ 小矢部ブランド はとむぎ/ヤーコン/メルヘン牛/バラ/卵/さといも/ホワイトラーメン/源平さくら塩/グルメ ・ メルヘン建築 メルヘン建築/いろんな時代の建物 ・ 盛んな文化 神社が多い/祭が盛ん/まつり/俱利伽羅峠/津沢夜高あんど祭/殖生護国八幡宮 ・ 商店街 商店街/地域の方々の仲が良い ・ 未分類 防災建築街区/社会保障の充実/保育園小中学校が近くに揃っていて通いやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化 子どもが少ない/若い人が少ない ・ 未分類 交通面/虫や動物が多い

表 3.2 第 2 部で挙げられた「小矢部の将来」の整理

<p>A班</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営 飲食店の運営 飲食店の経営とかを高校生がやりたいと思う (やってみたい) →高校の近くとかアウトレットとか、その資金を学校の設備に使ったらいいと思う 祭りの運営 祭りの運営を高校生がやったら楽しそう→祭りでうんとかだしてみたい、テント、石動のみこしの祭り ・ 寄り道できる場所 小矢部の小中学生や高校生が集まれるところが欲しい/学校の近くに勉強できる場所がもっとあってほしい (カフェとか) /昔の駄菓子屋さんみたいになちょっと寄れるお店が欲しい/すずらん通りにお店を増やしてほしい/駅の中とかに売店とかをつくったらいいと思う ・ 14歳の挑戦高校生ver. 14歳の挑戦できなものが高校でもしたい 保育園とか幼稚園に訪問に行ってみたい (近くにあるから) →クリスマス会とかやったら楽しそう、もしかしたら仲良くなれるかもしれない 職業体験だと思うから1つの進路学習だと思う レポートとか提出不要にしたらもっと楽しくなる…? ・ お年寄りとの交流 お年寄りと交流できる場所が欲しい→清楽園訪問 (老人ホーム) /劇、吹奏楽の演奏 ・ 高校生が遊ぶ場所 高校生らしいはしゃげる場所がほしい→ゲーセンとかボウリングとか ・ 交通 暖色の街灯が欲しい
<p>B班</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生の遊び場をつくる 高校生でも遊べる施設をつくる/高校生が遊べる場所を/高校生が気軽に寄れる所をふやす/高校生が入りやすい飲食店が欲しい /アウトレットに映画館が欲しい/商店街の発展/カフェ/カラオケ ・ 駅の周辺発展 駅の近くに遊べるスペースをつくる/駅の周りに施設を増やす ・ 交通を便利に となみー石動を電車1本でいける/市内をまわるバスの本数をふやす/交通をもっと便利に/街灯を増やす/道を明るくする ・ 小矢部の紹介 新聞部で地域の店の紹介/地域と関わりのある新聞をつくる/どんな所があるか紹介する ・ 未分類 メルヘン建築でお店をする/自然を見回せる施設をつくる/誰でも気軽に利用できる勉強スペース
<p>C班</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな自然 自然を活かしたカフェ ・ クロスランド小矢部 ファストフード ・ 小矢部ブランド 神社などの広場で小矢部の特産品を使った配給/小矢部の食べ物を使った料理を地域の人と作る ・ メルヘン建築 フォトスポット ・ 盛んな文化 地域の人と協力したPR(ポスターなど) ・ 商店街 今あるものを使って、地域の人や高校生が話し合うスペースがあると良い/地域の人とコミュニケーション ・ 未分類 ショッピングモール/三井アウトレットを中心にお店ができればよい/雑貨屋/高校生が帰り道に寄れるおしゃれな飲食店/コンパクトシティ ・ 少子化 高校生との地域の連携 ・ 未分類 砺波から小矢部までの交通便を増やす

3-3 参加者に対するアンケート結果

9名の参加者に対してアンケートを実施した。アンケート項目は表3.3の通りである。回答数は9(回収率100%)であった。なお、「小矢部で新たに組みたい地域活動・まちづくり活動」と「今後のワークショップへの参加意欲」については、1名記入漏れがあったため、この2つの設問については、回答数が8となった。

表3.3 アンケート項目

属性	学年/学科/性別/居住地
ワークショップについて	ワークショップに参加して得た新たな気づき/ワークショップの満足度/まちづくりへの参加意識の変化/小矢部の新たな魅力や課題を発見したか/小矢部で新たに組みたい地域活動・まちづくり活動が生まれたか/今後もこのような小矢部でのワークショップに参加したいか/感想

学年については、1年生が33.3%、2年生が44.4%、3年生が22.2%であり、各学年の高校生の参加が確認できた(図3.1)。学科については、普通科が88.9%、商業科が11.1%であり、多くは普通科であった(図3.2)。性別は、男性が11.1%、女性が88.9%であり、多くは女性であった(図3.3)。居住地については、小矢部市内が33.3%、小矢部市外が66.6%であり、小矢部市外の高校生が多かった(図3.4)。

ワークショップの満足度については、88.9%がとても満足、11.1%が満足と回答し、参加者全員が満足していることが伺える(図3.5)。ワークショップに参加したことによるまちづくりへの参加意識の変化については、66.7%がとても高まった、33.3%が高まったと回答し、参加者全員のまちづくりへ参加意識の高まりが確認できた(図3.6)。ワークショップに参加したことで小矢部の新たな魅力や課題を発見したかについては、88.9%がそう思う、11.1%が少しそう思うと回答した(図3.7)。改めて魅力や課題を考えることや、参加者どうして様々な意見交換を行なうことによって、魅力・課題の発見につながったと考えられる。小矢部で新たに組みたい地域活動・まちづくり活動が生まれたかについては、87.5%がそう思う、12.5%が少しそう思うと回答し、ワークショップによって、地域活動、まちづくり活動への参加意欲が醸成されたと考えられる(図3.8)。また、今後もこのような小矢部でのワークショップに参加したいかについては、87.5%がそう思う、12.5%が少しそう思うと回答し、ワークショップへの参加意向も高いことがうかがえる。

ワークショップに参加して得た新たな気づきについてはの回答は、「小矢部について」と「自身の考えについて」の2つに分類できた(表3.4)。「小矢部について」は小矢部の魅力や良さに改めて気づくことができたという回答が多かった。「自身の考えについて」はワークショップによって自分の考えや意見に気づかされたという回答やほかの人の意見を聞くことで新たな考えが生まれたという回答があった。

最後の感想については、ワークショップ自体が楽しかった、意見の共有ができた、小矢部について新たな発見があったという回答が見られた(表4.5)。

以上のアンケート結果から、このワークショップによってまちづくりへの参加意識の向上と、小矢部で新たに組みたい地域活動やまちづくり活動が生まれたことが示唆された。また、高校生自身が気づいていなかった小矢部の新たな魅力や課題を発見することにもつながり、高校生

の地域に対する意識の向上に寄与したと考えられる。さらに、ワークショップの満足度も非常に高く、今後のワークショップへの参加意向も高いことから、このように高校生自身が考え話し合いながら進めるワークショップは、地域学習やまちづくりを進める上で効果的であると考えられる。

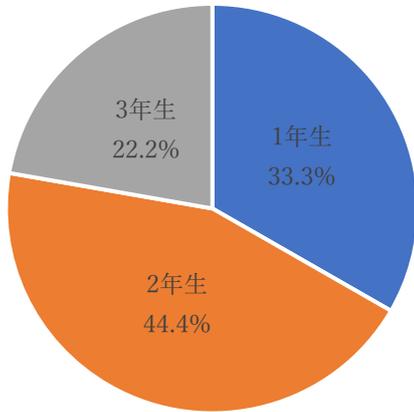


図 3.1 学年

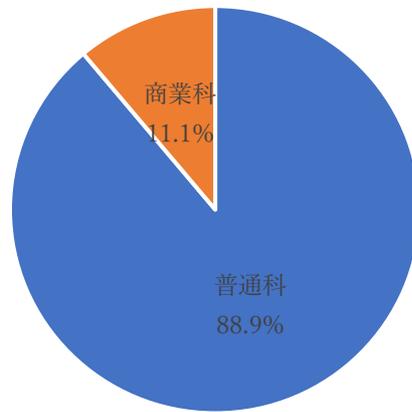


図 3.2 学科

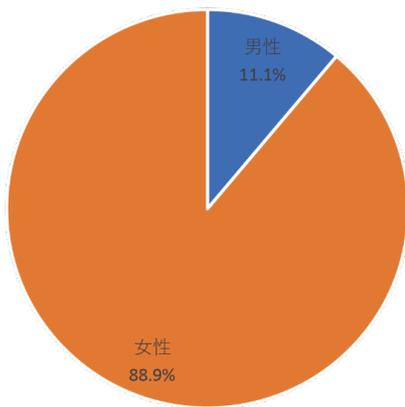


図 3.3 性別

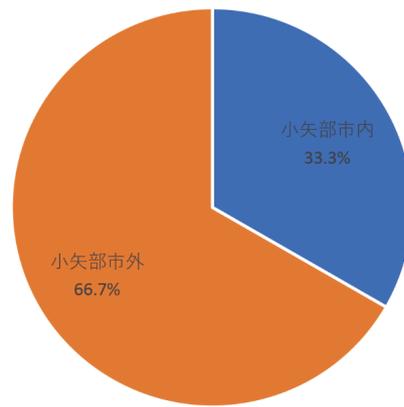


図 3.4 居住地

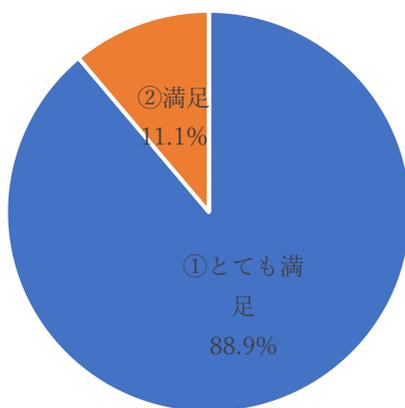


図 3.5 ワークショップの満足度

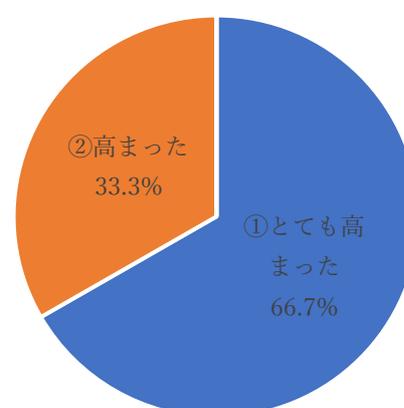


図 3.6 まちづくりへの参加意識の変化

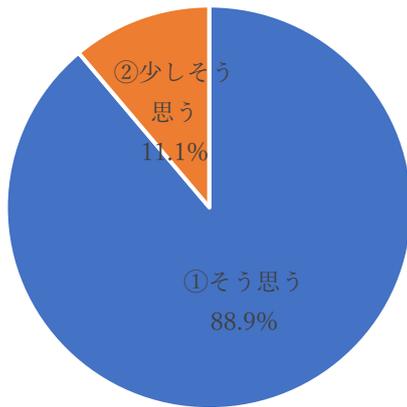


図 3.7 小矢部の新たな魅力や課題を発見したか

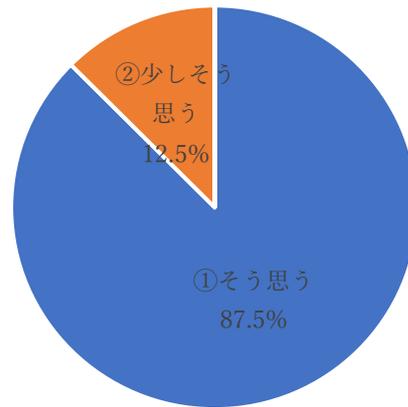


図 3.8 小矢部で新たに取り組みたい地域活動・まちづくり活動が生まれたか

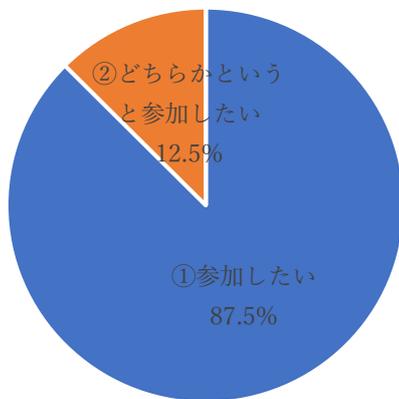


図 3.9 今後もこのような小矢部でのワークショップに参加したいか

表 3.4 ワークショップに参加して得た新たな気づき

問4 本日のワークショップに参加して得た新たな気づきがあれば教えてください。	
小矢部について	小矢部の良さに改めて気づくことができました。 小矢部のいいところについて気づくことができました。 小矢部市に様々な魅力があること。 小矢部の魅力も自分が気づいていない魅力を知ることができました。 小矢部にはけっこう店があるけど駅の近くにはあまりない 今、小矢部にある建物からいろいろな発想ができるんだなと勉強になりました。
自身の考えについて	普段はあんまり思っなくて、こういう場があればたくさん意見があったんだなということ。 小さい頃から、たまに来ていたので色々な発見がある。 多くの人の意見を聞いたことで、新たな考え方をみにつけられたと思います。 いろんな考えや意見があって自分自身もこんな考え、意見があるんだなと、気づかされたことが多かったです。 地域活性化には、地域の人と関わりを持つことも大切なのかなと思いました。 元々の良さを生かしたものを考えること。

表 3.5 感想

<p>問7 本日のイベントについてご感想をご自由にご記述下さい。</p> <p>小矢部市に住んでいて自分が知らなかった魅力や課題を知れて良かったです。また、自分が考えていることも共有できて良い機会をもらえたなと思いました。</p> <p>最初参加する前は少し面倒だなあと感じていましたが、参加してみると、とても楽しくなり、人見知りですら初対面の人に話さないタイプなのですが、それが発動しないくらい面白かったです。また、グループのやちさんと話せてとても楽しかったです。グループワーク以外の話も出来て盛り上がったので良かったです。発表緊張しました(笑)。</p> <p>思っていた以上に意見が出て、充実したイベントだった。身近なことについて考えるきっかけになったので良かったです。</p> <p>地域と高校がむすびつくことが増えれば良いと思いました。</p> <p>たくさんの人を意見を聞いて、小矢部の魅力に新たに気づかされました。なかなか、まちのことを考えることがなかったので、とても良いきかいたと思いました。</p> <p>小矢部市のことについて知らなかったことを知ることができたので良かったです。</p> <p>ワークショップでいろいろな意見があっっておもしろいと思った。よりよい小矢部市になるように考えることができてよかった。</p> <p>市外なので魅力はあまり知らなかったけど、今回のかいぎで多くのことを知れたのでよかった</p> <p>初めてワークショップを体験しましたが、グループでアイデアを出し合ってからまとめていくというのは、アイデアも出しやすくなりいいと思いました。ワークショップは楽しいものだと思います。</p>
--

3-4 小矢部型地域愛着形成プログラムの開発に向けた考察

ワークショップの結果、高校生は寄り道できる場所や遊び場を欲していること、地域の人々の優しさや温かさが小矢部市の魅力のひとつと考えていることが明らかとなった。昨年度の研究³⁾で明らかにした、小矢部市の高校生は人や自然との接触によって地域愛着が醸成されるという結果と合わせて考えると、高校生の地域愛着醸成のためには、帰り道に地域住民と交流する場や機会をつくることが効果的であると考えられる。具体的には、「高校生が運営する飲食店」、「小学生・中学生・高校生が勉強できる場所」、「駄菓子屋」、「多世代の交流スペース」などが挙げられたため、こうした意見を参考にしながら、地域の多世代の人と交流ができ、高校生の居場所ともなりうる場をつくることが考えられる。

また、アンケートの結果から、こうしたまちの魅力や課題、将来像を考えるワークショップを実施することは、高校生が地域の魅力や課題を認識するとともに、地域に対する意識や関心を高める効果が期待できると考えられる。すなわち、小矢部型地域愛着形成プログラムを開発する上では、ただプログラムを用意して、そこに高校生に参加してもらうという提供型の方法ではなく、高校生を対象としたワークショップを開発のプロセスに取り入れ、企画段階から高校生の関わりをつくることで、主体性を育ながら進めていくことが重要であると考えられる。

4. 小矢部市の各政策が市民のシビックプライドに与える影響

4-1 調査方法

小矢部市民を対象に、政策満足度とシビックプライドに関するアンケート調査を実施した。小矢部市では2年に1回、市民のまちづくりへの意見を把握することを目的に、市民満足度調査を実施している。本調査では、これに伊藤⁴⁾が開発したシビックプライド尺度を追加し、小矢部市で無作為抽出した満18歳以上の小矢部市民に調査票を郵送で配布した。返信用封筒を同封し、郵送により回答を得た。

調査項目は、①属性、②シビックプライド尺度、③政策満足度である。①属性では、性別、居住地区、年齢、職業、世帯構成、居住年数、市外居住経験の有無、通勤・通学先について問うた。②シビックプライド尺度については、地域愛着、忠誠的愛郷心、地域参画、地域アイデンティティの4指標、計20項目を用い、回答は、「あてはまる」から「あてはまらない」までの5件法で求めた。③政策満足度は、第7次小矢部市総合計画に記されている6つのまちづくりの基本目標の政策に対する満足度を、「高い」から「低い」の5件法で回答を求めた。1250部配布し、回答数は479(回答率38.3%)、有効回答数は437(有効回答率35.0%)であった(表4.1)。

表 4.1 調査概要

調査期間	2021年7月1日～2021年8月6日
調査対象	満18歳以上の小矢部市民から無作為抽出
配布方法	調査票を郵送により配布し、同封の封筒により郵送回答
配布数	1250
回収数	479(回答率38.3%)
有効解答数	437(有効回答率35.0%)
調査項目	①属性
	性別／居住地区／年齢／職業／世帯構成／居住年数／市外居住経験の有無／通勤・通学先
	②シビックプライドの尺度
	既往研究で用いられている地域愛着、忠誠的愛郷心、地域参画、地域アイデンティティの4指標、計20項目(あてはまる、ややあてはまる、どちらともいえない、ややあてはまらない、あてはまらないの5件法)
	③政策満足度
	第7次小矢部市総合計画に記されている以下の6つのまちづくりの基本目標に含まれている施策の満足度
	1.魅力あふれる産業と経済活力のみなざるまち
	2.人をよびこむ都市空間と多彩な交流でにぎわうまち
	3.未来にやさしい環境と安全安心に暮らせるまち
	4.市民と行政が協働して自治体経営を支えるまち
	5.人をすこやかにはぐくむ教育と歴史文化がいきづくまち
	6.心がやすらぐ健康とあたたかな福祉で支え合うまち
	(高い、やや高い、どちらともいえない、やや低い、低いの5件法)

4-2 回答者の属性

はじめに回答者 437 名の属性を整理する表 4.4。性別は男性(47.1%)、女性(52.9%)と大きな性別差は見られなかった。居住地区は、石動地区(21.1%)や埴生地区(16.5%)が比較的多い割合を示し、それ以外の地区はいずれも 10%以下の割合であった。年齢は、30-39 歳(24.9%)や 29 歳以下(22.4%)といった若年層が半数弱を占めた。職業は、会社員(41.9%)が最も多く、次いでパート・アルバイト(13.5%)が多いことから、回答者の多くが働き盛りの世代であることが伺える。現在の世帯構成は、二世帯世帯(子と同居)(29.5%)、三世帯以上世帯(親と子と孫など)(26.8%)、二世帯世帯(親と同居)(23.6%)が合わせて約 8 割を占める。また、小矢部市への居住年数は 30 年以上(54.9%)が最も多く、次いで 20-29 年(20.4%)の割合が高いことから、回答者が全体的に小矢部市への居住年数が高いことが示唆される。なお、小矢部市外での居住経験がある回答者(69.6%)は約 7 割を占めていた。最後に、通勤・通学先は小矢部市内(35.7%)が最も多く、高岡市(12.8%)や砺波市(9.2%)も比較的高い。一方で、通勤・通学もしていない(15.1%)も回答者も一定層見られ、無職(8.5%)や専業主婦(夫)(5.9%)の層との関連が見られると考える。

4-3 シビックプライド尺度による類型化とその特徴

4-3-1 シビックプライド尺度

表 4.2 にシビックプライド尺度の平均値を示した。逆転項目の値は逆転済みの値を示している。最も平均値が高かったのは、「4.小矢部市に自分の居場所がない（逆転項目）」、続いて「6.小矢部は大切だと思う」、「2.小矢部市が好きだ」、「1.小矢部市は住みやすいと思う」となっており、地域愛着を想定した項目が高い結果となった。一方、最も平均値が低かったのは、「16.自分は地域社会に変化を起こすことができると思う」であり、続いて「18.「小矢部の人」という言葉は、自分がどういう人物かをよく説明する言葉である」、「14.自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う」、「15.地域社会を良い場所にするため」であった。地域参画を想定した項目が低い結果となった。富山市を対象とした既往研究と比較すると、地域愛着が高く、地域参画が低いという傾向は同様であるが、「4.小矢部市に自分の居場所がない（逆転項目）」、「12.小矢部市のスポーツチームを積極的に応援する」「13.地域社会の一員としての責任を真剣に考えている」の3尺度以外はすべて富山市の方が高く、全体平均も0.16富山市の方が高かった。

表 4.2 シビックプライド尺度

	シビックプライドの尺度	平均値
地域愛着	①小矢部市は住みやすいと思う	3.55
	②小矢部市が好きだ	3.61
	③小矢部市の雰囲気や土地柄が気に入っている	3.43
	④小矢部市に自分の居場所はない(逆転項目)	3.99
	⑤小矢部市にずっと住み続けたい	3.48
	⑥小矢部市は大切だと思う	3.86
	⑦小矢部市にいつまでも変わって欲しくないものがある	3.38
	⑧小矢部市になくなってしまうと悲しいものがある	3.53
忠誠的 愛郷心	⑨小矢部市は他のほとんどの地域より良い場所である	3.00
	⑩小矢部市を批判している人がいたら、小矢部市を擁護する	3.21
	⑪友人や家族に小矢部市の産品や製品を使うように勧める	2.89
	⑫小矢部市のスポーツチームを積極的に応援する	3.35
地域 参画	⑬地域社会の一員としての責任を真剣に考えている	3.14
	⑭自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う	2.56
	⑮地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献ができています	2.65
	⑯自分は地域社会に変化を起こすことができると思う	2.18
地域アイ デンティティ	⑰人生の大部分が小矢部市に結びついている	3.17
	⑱「小矢部市の人」という言葉は、自分がどういう人物かをよく説明する言葉である	2.35
	⑲小矢部市民であることは自分にとって重要なことである	2.75
	⑳小矢部市は自分にとって特別な場所である	3.26

4-3-2 シビックプライド因子の抽出

シビックプライド 20 項目への回答結果を用いて、因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行った結果、「11.友人や家族に小矢部市の産品や師品」、「12.小矢部市のスポーツチーム」の 2 項目の因子負荷量が 0.35 以下であった。この 2 項目を除外して再度因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行なった結果、4 因子を抽出した。表 4.3 に因子分析の推定結果を示す。なお、項目の妥当性を確認するために、KMO の標本妥当性の測度検討^{注1)}と Bartlett 球面性検定^{注2)}を行った結果、KMO は 0.917、球面性検定有意確立 $p<0.001$ となり、因子分析の適用は妥当であると判断した。除外した項目以外は既往研究の因子分析と類似の傾向となっており、それに倣って、第 1 因子を「愛着」因子、第 2 因子「参画」因子、第 3 因子を「アイデンティティ」因子、第 4 因子を「持続願望」因子と命名した。また、信頼性の検討のため、Cronbach の α 係数を算出したところ、第 1 因子 0.890、第 2 因子 0.860、第 3 因子 0.827、第 4 因子 0.822 となり、各下位尺度とともに、0.8 以上の内部一貫性が見られた。

表 4.3 シビックプライドの因子分析結果

	愛着	参画	アイデンティティ	持続願望
②小矢部市が好きだ	0.999	0.06	-0.134	-0.057
③小矢部市の雰囲気や土地柄が気に入っている	0.866	0.086	-0.161	0.042
①小矢部市は住みやすいと思う	0.824	-0.043	-0.111	0.005
⑥小矢部市は大切だと思う	0.559	-0.031	0.144	0.129
⑤小矢部市にずっと住み続けたい	0.554	-0.03	0.216	0.022
④小矢部市に自分の居場所はない	0.51	-0.073	0.109	-0.115
⑨小矢部市は、他のほとんどの地域より良い場所である	0.416	0.01	0.278	0.072
⑩小矢部市を批判している人がいたら、小矢部市を擁護する	0.37	0.039	0.329	0.057
⑭自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う	-0.084	0.906	0.021	0.048
⑯自分は地域社会に変化を起こすことができると思う	-0.097	0.818	-0.013	0.046
⑮地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献ができていると思う	0.09	0.79	-0.012	-0.061
⑬地域社会の一員としての責任を真剣に考えている	0.168	0.533	0.114	-0.088
⑰小矢部市民であることは自分にとって重要である	0.018	0.053	0.793	0.031
⑰人生の大部分が小矢部市に結びついている	0.03	-0.035	0.769	-0.131
⑱「小矢部市の人」という言葉は、自分がどういう人物かをよく説明する言葉である	-0.144	0.144	0.686	0.046
⑳小矢部市は自分にとって特別な場所である	0.335	-0.05	0.483	0.053
⑦小矢部市にいつまでも変わって欲しくないものがある	-0.033	0.006	-0.107	1.079
⑧小矢部市になくなってしまうと悲しいものがある	0.11	-0.035	0.132	0.579

4-3-3 シビックプライドによる類型化

回答者をシビックプライドにより類型化するため、4-3-2 の因子分析から得られた因子得点を標準化したものを用いてクラスター分析（word 法、平方ユークリッド距離）を行い、シビックプライド尺度への回答を用いて回答者 437 名を 3 つに類型化した（図 4.1）。各類型のシビックプライドの特性を明らかにするために、類型ごとに回答者の各因子得点の平均値を算出し、折れ線グラフで示した（図 4.2）。

類型 1 は 97 人(22.2%)で構成され、他の類型と比較し、すべての因子で因子得点平均値が高いことから、最もシビックプライドが高い類型であると考えられる。そのため、この類型を高シビックプライド型とした。類型 2 は 253 人(57.9%)で構成され、全ての因子で因子得点平均値が 0 に近い値を示していることから中シビックプライド型とした。類型 3 は 87 人(19.9%)で構成され、他の類型と比較し全ての因子得点平均値が低く、-1.0 以下となっていることから、最もシビックプライドが低い類型であると考えられる。そのため、低シビックプライド型とした。

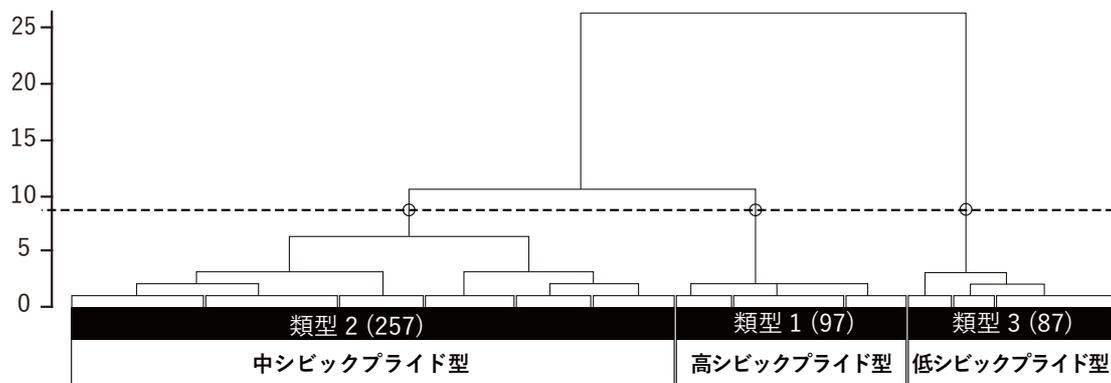


図 4.1 シビックプライドのクラスター分析によるデンドログラム

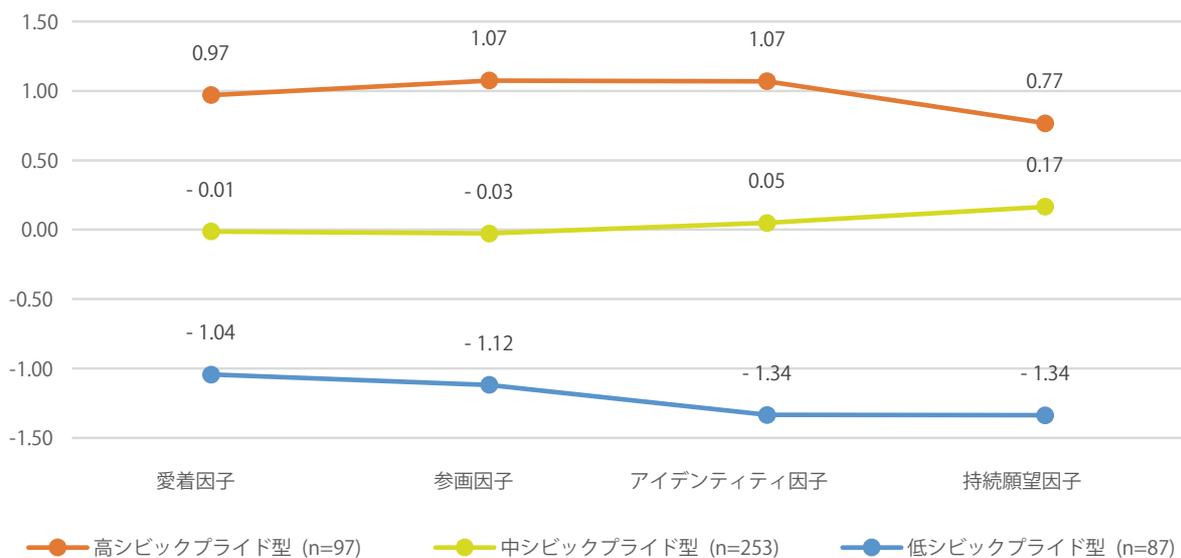


図 4.2 シビックプライド類型別因子得点平均値

4-3-4 各シビックプライド類型の特徴

シビックプライド類型の各特徴を把握するため、各シビックプライド類型と属性とのクロス集計を行い、カイ二乗検定および残差分析を行なった(表 4.4)。その結果、有意差が見られたのは、性別、年齢、居住年数であった。

性別については、高シビックプライド型が男性が $p<0.05$ で有意に多く、一方で中シビックプライド型は女性が $p<0.05$ で有意に多かった。男性の方がシビックプライドが高いことが伺える。これについて詳細に分析するために、性別ごとにシビックプライド尺度の各項目の平均値を算出し比較したところ、ほとんどの項目で差は見られないものの、「参画」因子の因子負荷量が高い「14.自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う」、「16.自分は地域社会に変化を起こすことができると思う」「15.地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献ができてい」の3項目で男性の方が0.3以上高い結果となった。これより、男性の方が地域参画の意識が高く、そのことがシビックプライドの高さに影響していると考えられる。

年齢について、高シビックプライド型は29歳以下が $p<0.10$ で少ない有意傾向がみられ、70歳以上が $p<0.01$ で有意に多かった。一方、低シビックプライド型は70歳以上が $p<0.10$ で少ない有意傾向がみられた。さらに、有意差は見られなかったものの、30-39歳は低シビックプライド型より高シビックプライド型の方が9.1%少なく、60-69歳は低シビックプライド型より高シビックプライド型の方が6.5%多い。これらより、高齢者の方が若者に比べてシビックプライドが高いと考えられる。

居住年数について、高シビックプライド型は30年以上が $p<0.01$ で有意に多く、5年未満と5~9年が $p<0.10$ で少ない有意傾向が見られた。また、低シビックプライド型は5~9年が $p<0.01$ で有意に多かった。これらより、居住年数が長い方がシビックプライドが高いと考えられる。

居住地区、年齢、職業、世帯構成、市外居住経験の有無、通勤・通学先については類型ごとの有意差が見られず、シビックプライドとの関連が低いと考えられる。

表 4.4 シビックプライド類型別属性

	項目	全体平均		高シビックプライド		中シビックプライド		低シビックプライド	
		n	%	n	%	n	%	n	%
性別	男性	206	47.1%	56	57.7%*	107	42.3%*	43	49.4%
	女性	231	52.9%	41	42.3%*	146	57.7%*	44	50.6%
居住地区	石動地区	92	21.1%	24	24.7%	50	19.8%	18	20.7%
	南谷地区	13	3.0%	3	3.1%	8	3.2%	2	2.3%
	埴生地区	72	16.5%	15	15.5%	46	18.2%	11	12.6%
	松沢地区	40	9.2%	5	5.2%	26	10.3%	9	10.3%
	正得地区	17	3.9%	4	4.1%	10	4.0%	3	3.4%
	荒川地区	28	6.4%	5	5.2%	16	6.3%	7	8.0%
	子撫地区	16	3.7%	6	6.2%	7	2.8%	3	3.4%
	宮島地区	3	0.7%	0	0.0%	3	1.2%	0	0.0%
	北蟹谷地区	19	4.3%	6	6.2%	11	4.3%	2	2.3%
	若林地区	23	5.3%	3	3.1%	11	4.3%	9	10.3%
	津沢地区	43	9.8%	13	13.4%	24	9.5%	6	6.9%
	水島地区	27	6.2%	3	3.1%	17	6.7%	7	8.0%
	藪波地区	24	5.5%	6	6.2%	11	4.3%	7	8.0%
	東蟹谷地区	17	3.9%	4	4.1%	10	4.0%	3	3.4%
無回答	3	0.7%	0	0.0%	3	1.2%	0	0.0%	
年齢	29歳以下	98	22.4%	15	15.5%+	59	23.3%	24	27.6%
	30-39歳	106	24.3%	19	19.6%	62	24.5%	25	28.7%
	40-49歳	63	14.4%	17	17.5%	32	12.6%	14	16.1%
	50-59歳	75	17.2%	15	15.5%	46	18.2%	14	16.1%
	60-69歳	52	11.9%	13	13.4%	33	13.0%	6	6.9%
	70歳以上	43	9.8%	18	18.6%**	21	8.3%	4	4.6%+
職業	農林漁業	6	1.4%	3	3.1%	3	1.2%	0	0.0%
	自営業	22	5.0%	4	4.1%	14	5.5%	4	4.6%
	会社員	183	41.9%	36	37.1%	106	41.9%	41	47.1%
	団体職員	20	4.6%	4	4.1%	12	4.7%	4	4.6%
		9	2.1%	1	1.0%	4	1.6%	4	4.6%
	公務員	38	8.7%	11	11.3%	21	8.3%	6	6.9%
	パート・アルバイト	59	13.5%	10	10.3%	38	15.0%	11	12.6%
	専業主婦(夫)	26	5.9%	6	6.2%	17	6.7%	3	3.4%
	学生	27	6.2%	7	7.2%	14	5.5%	6	6.9%
	無職	37	8.5%	11	11.3%	19	7.5%	7	8.0%
	その他	9	2.1%	3	3.1%	5	2.0%	1	1.1%
	無回答	1	0.2%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%
現在の世帯構成	単身世帯 (ひとり暮らし)	24	5.5%	5	5.2%	12	4.7%	7	8.0%
	一世帯世帯 (夫婦のみ)	59	13.5%	14	14.4%	39	15.4%	6	6.9%
	二世帯世帯 (親と同居)	103	23.6%	25	25.8%	56	22.1%	22	25.3%
	二世帯世帯 (子と同居)	129	29.5%	23	23.7%	76	30.0%	30	34.5%
	三世帯以上世帯 (親と子と孫など)	117	26.8%	30	30.9%	67	26.5%	20	23.0%
	その他	4	0.9%	0	0.0%	2	0.8%	2	2.3%
無回答	1	0.2%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	
小矢部市への 居住年数	5年未満	44	10.1%	5	5.2%+	30	11.9%	9	10.3%
	5-9年	18	4.1%	1	1.0%+	9	3.6%	8	9.2%**
	10-19年	46	10.5%	8	8.2%	27	10.7%	11	12.6%
	20-29年	89	20.4%	17	17.5%	54	21.3%	18	20.7%
	30年以上	240	54.9%	66	68.0%**	133	52.6%	41	47.1%
小矢部市外への 居住経緯	ある	304	69.6%	66	68.0%	173	68.4%	65	74.7%
	ない	132	30.2%	31	32.0%	80	31.6%	21	24.1%
	無回答	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%
通勤・通学先	小矢部市内	156	35.7%	34	35.1%	91	36.0%	31	35.6%
	高岡市	56	12.8%	11	11.3%	30	11.9%	15	17.2%
	砺波市	40	9.2%	8	8.2%	23	9.1%	9	10.3%
	南砺市	27	6.2%	6	6.2%	18	7.1%	3	3.4%
	射水市	9	2.1%	1	1.0%	5	2.0%	3	3.4%
	氷見市	7	1.6%	1	1.0%	3	1.2%	3	3.4%
	富山市	22	5.0%	5	5.2%	12	4.7%	5	5.7%
	その他富山県内	3	0.7%	0	0.0%	3	1.2%	0	0.0%
	金沢市	24	5.5%	5	5.2%	15	5.9%	4	4.6%
	津幡市	3	0.7%	0	0.0%	2	0.8%	1	1.1%
	その他富山県外	21	4.8%	5	5.2%	12	4.7%	4	4.6%
	通勤も通学も していない	66	15.1%	20	20.6%	38	15.0%	8	9.2%
無回答	3	0.7%	1	1.0%	1	0.4%	1	1.1%	

p+<0.10 p*<0.05 p**<0.01

4-4 政策満足度による類型化とその特徴

4-4-1 政策満足度

表 4.5 に政策満足度の平均値を示した。最も平均値が高かったのは「22.消防・救急体制の充実」(3.33)で、次いで「20.生活環境の保全」(3.30)、「23.交通安全対策の充実」(3.28)、「9.上下水道の整備」(3.27)、「24.犯罪をおこさせないまちづくりの推進」(3.25)がいずれも平均値 3.2 以上と他の項目と比較すると満足度が高い。一方、「4.中心市街地の活性化」(2.40)、「14.観光の振興」(2.47)、「2.商工業の振興」(2.50)、「15.地域間・国際交流の推進」(2.56)が他の項目と比べて低い。平均値の高い「22.消防・救急体制の充実」、「20.生活環境の保全」、「23.交通安全対策の充実」、「24.犯罪をおこさせないまちづくりの推進」はすべてまちづくり基本目標 3 に含まれている政策であることから、環境に優しく安全安心に暮らせるまちづくりに対する満足度が高いと考えられる。一方、中心市街地活性化や商業振興などの産業・経済の活発化や、観光振興および地域間・国際交流の推進といった対外的な市の PR や交流に対する満足度が低いと考えられる。

表 4.5 政策満足度項目

カテゴリー	項目	平均値	標準偏差	設問No.
1. 魅力あふれる産業と 経済活力のみなぎるまち	農業・農村の振興	3.07	0.81	1
	商工業の振興	2.50	0.91	2
	地域ブランドの振興	2.86	0.86	3
	中心市街地の活性化	2.40	1.02	4
	企業立地の促進	2.62	0.89	5
	雇用の安定	2.75	0.85	6
2. 人をよびこむ都市空間と 多彩な交流でにぎわうまち	魅力ある市街地等の形成	2.68	0.85	7
	道路ネットワークの充実	2.96	0.89	8
	上下水道の整備	3.27	0.94	9
	公園・緑地の充実	2.98	0.95	10
	住宅・宅地の充実	3.03	0.82	11
	交通体系の充実	2.70	0.94	12
	地域情報化の推進	2.88	0.80	13
	観光の振興	2.47	0.86	14
	地域間・国際交流の推進	2.56	0.73	15
3. 未来にやさしい環境と 安全安心に暮らせるまち	移住・定住の促進	2.76	0.89	16
	地球温暖化防止活動の促進	2.79	0.74	17
	豊かな森の保全・活用	2.96	0.73	18
	雪に強いまちづくりの推進	2.74	1.03	19
	生活環境の保全	3.30	0.82	20
	防災・危機管理体制の充実	3.11	0.76	21
	消防・救急体制の充実	3.33	0.73	22
	交通安全対策の充実	3.28	0.75	23
4. 市民と行政が協働して 自治体経営を支えるまち	犯罪をおこさせないまちづくりの推進	3.25	0.74	24
	市民と行政との協働の推進	2.91	0.72	25
	男女共同参画社会の推進	2.85	0.75	26
	人権の尊重	2.96	0.68	27
	開かれた市政の推進	3.08	0.78	28
5. 人をすこやかに はぐくむ教育と歴史文化が いきづくまち	持続可能な自治体経営の確立	2.91	0.75	29
	学校教育の充実	3.19	0.75	30
	青少年の健全育成	3.13	0.62	31
	生涯にわたる学習活動の推進	3.10	0.69	32
	生涯スポーツの促進	3.03	0.69	33
	芸術・文化の振興	2.97	0.73	34
6. 心がやすらぐ健康と あたたかな福祉で 支え合うまち	歴史遺産・文化財の保存の活用	3.04	0.74	35
	地域医療体制の充実と健康づくりの推進	3.05	0.83	36
	社会保障の充実	3.11	0.72	37
	地域ぐるみ福祉の充実	3.11	0.65	38
	結婚支援の推進	2.91	0.78	39
	妊娠・出産・子育て支援の充実	3.03	0.86	40
	就学前教育・保育の充実	3.17	0.70	41
	障害者及び障害児童福祉の充実	3.05	0.66	42
高齢者福祉の充実	3.14	0.78	43	

4-4-2 政策満足度因子の抽出

政策満足度の構成要素を確認するために、政策満足度の 43 項目の回答を用いて因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行なった。その結果、「8.道路の充実」、「17.地球温暖化防止活動の推進」の因子負荷量が 0.35 以下であったため、この 2 項目を除外して再度因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行った。その結果、「9.上下水道整備」、「18.豊かな森の保全活用」の因子負荷量が 0.35 以下であったため、この 2 項目を除外してもう一度因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行い、8 因子を抽出した。表 4.6 に因子分析の推定結果を示す。なお、KMO は 0.927、球面性検定有意確立 $p < 0.001$ となり、因子分析の適用は妥当であると判断した。それぞれの因子の解釈は以下の通りである。

第 1 因子は 6 項目で構成され、「22.消防・救急体制の充実」、「23.交通安全対策の充実」「24.犯罪をおこさせないまちづくりの推進」など、まちの安全性に対する項目が高い因子負荷量を示したことから「安心・安全」因子と解釈した。第 2 因子は 6 項目で構成され、「2.商工業の振興」、「5.企業立地の促進」、「3.地域ブランドの振興」「4.中心市街地の活性化」など産業・経済の活性化に関する項目が高い因子負荷量を示したことから「産業と経済活力」因子と解釈した。第 3 因子は 8 因子で構成され、「15.地域間・国際交流の推進」、「14.観光の振興」が高い因子負荷量を示したことから、「交流と観光振興」因子と解釈した。第 4 因子は 5 因子で構成され、「37.社会保障の充実」、「43.高齢者福祉の充実」などの福祉に関する項目で高い因子負荷量を示したことから、「福祉」因子と解釈した。第 5 因子は 3 項目で構成され、「40.妊娠・出産・子育て支援の充実」や「41.就学前教育・保育の充実」が高い因子負荷量を示したため、「子育て支援」因子と解釈した。第 6 因子は 4 項目で構成され、「33.生涯スポーツの促進」や「34.芸術・文化の振興」などの生涯学習に関する項目で高い因子負荷量を示したことから、「生涯学習」因子と解釈した。第 7 因子は 5 項目で構成され、「26.男女共同参画社会の推進」、「27.人権の尊重」、「25.市民と行政との協働の推進」といった市民参画や官民協働に関する項目で高い因子負荷量を示したことから、「官民協働」因子と解釈した。最後に、第 8 因子は「30.学校教育の充実」と「31.青少年の健全育成」の教育・育成に関する 2 項目で特に高い因子負荷量を示したことから、「教育」因子と解釈した。

表 4.6 政策満足度の因子分析結果

項目	因子							
	安心安全	産業と経済活力	交流と観光振興	福祉	子育て支援	生涯学習	官民協働	教育
㉒消防、救急体制の充実	0.923	-0.088	0.109	-0.080	0.021	-0.004	-0.078	-0.063
㉓交通安全対策の充実	0.699	-0.015	0.094	0.048	-0.038	0.087	-0.039	-0.032
㉔犯罪をおこさないまちづくりの推進	0.633	-0.064	-0.059	0.101	-0.037	-0.008	0.129	0.054
㉕生活環境の保全	0.603	0.114	-0.072	0.157	-0.101	0.026	-0.065	0.072
㉖防災、危機管理体制の充実	0.568	0.008	0.141	0.010	0.008	-0.061	0.079	0.035
㉗雪に強いまちづくりの推進	0.429	0.091	-0.090	-0.035	0.069	0.014	0.037	-0.005
㉘商工業の振興	-0.152	0.790	-0.061	-0.050	-0.041	0.097	0.081	-0.003
㉙企業立地の促進	-0.034	0.670	0.137	0.094	-0.080	-0.013	-0.110	0.005
㉚地域ブランドの振興	0.153	0.669	0.003	-0.119	0.074	0.018	0.047	-0.050
㉛中心市街地の活性化	-0.103	0.636	0.183	0.019	0.026	0.001	-0.062	-0.017
㉜雇用の安定	0.073	0.568	0.006	0.104	0.054	-0.085	0.013	-0.006
㉝農業・農村の振興	0.300	0.537	-0.252	-0.072	-0.032	0.104	0.037	-0.042
㉞地域間・国際交流の推進	-0.096	-0.024	0.697	-0.064	-0.055	0.143	0.072	-0.067
㉟観光の振興	-0.076	0.052	0.674	0.094	-0.005	0.134	-0.033	-0.066
㊱公園・緑地の充実	0.166	-0.075	0.548	-0.062	-0.097	-0.046	-0.048	0.157
㊲地域情報化の推進	0.014	-0.041	0.487	0.027	-0.114	0.189	-0.060	0.059
㊳交通体系の充実	-0.004	0.095	0.458	0.054	0.030	0.059	-0.020	0.007
㊴住宅・宅地の充実	0.197	0.014	0.451	-0.048	0.123	-0.143	0.005	0.070
㊵移住・定住の促進	0.096	0.050	0.379	-0.046	0.367	-0.007	0.070	-0.128
㊶魅力のある市街地等の形成	0.010	0.235	0.367	-0.016	0.123	-0.183	0.116	0.052
㊷社会保障の充実	0.001	-0.024	0.054	0.923	-0.011	-0.139	-0.031	0.046
㊸高齢者福祉の充実	0.064	-0.029	-0.108	0.703	0.057	0.120	0.079	-0.157
㊹地域医療体制の充実と健康づくりの推進	0.017	0.134	0.060	0.650	-0.006	-0.127	-0.146	0.149
㊺地域ぐるみ福祉の充実	0.118	-0.112	-0.010	0.621	0.083	0.208	0.023	-0.141
㊻障害者及び障害児福祉の充実	-0.001	-0.012	-0.120	0.403	0.235	0.104	0.099	-0.016
㊼妊娠・出産・子育ての充実	-0.039	0.000	-0.016	0.027	0.834	-0.015	-0.083	0.116
㊽就学前教育・保育の充実	0.022	-0.022	-0.204	0.006	0.692	0.109	0.070	0.114
㊾結婚支援の推進	-0.049	0.009	0.117	0.076	0.652	0.019	-0.055	-0.107
㊿生涯スポーツの促進	0.032	-0.026	0.097	-0.071	0.093	0.659	-0.131	0.113
①芸術・文化の振興	0.007	0.060	0.059	-0.086	0.013	0.632	0.087	0.079
②歴史遺産・文化財の保存の活用	-0.026	0.025	0.099	0.036	0.018	0.537	0.103	-0.002
③生涯にわたる学習活動の推進	0.057	0.109	0.012	0.125	-0.053	0.512	-0.112	0.209
④男女共同参画社会の推進	-0.054	0.039	-0.047	-0.059	-0.016	0.003	0.920	-0.033
⑤人権の尊重	0.119	-0.073	-0.038	-0.054	0.043	-0.094	0.772	0.125
⑥市民と行政との協働の推進	0.065	0.048	0.188	-0.016	-0.077	0.151	0.555	-0.137
⑦持続可能な自治体経営の確立	-0.087	0.069	0.113	0.159	0.003	-0.066	0.455	0.217
⑧開かれた市政の推進	0.055	0.030	0.067	0.239	-0.140	-0.021	0.443	0.073
⑨学校教育の充実	0.021	0.020	0.045	-0.033	0.024	0.145	-0.005	0.696
⑩青少年の健全育成	0.026	-0.101	0.016	-0.017	0.077	0.137	0.094	0.635

4-4-3 政策満足度による類型化

次に、政策満足度によって回答者を類型化するために、4-4-2 の因子分析から得られた因子得点を標準化したものを用いてクラスター分析（word 法、平方ユークリッド距離）を行い、政策満足度への回答傾向によって 3 つに類型化した（図 4.3）。なお、20 人は政策満足度のいずれかの回答項目に欠損が生じていたため分析対象から除外し、計 417 名を分析対象とした。それぞれの類型の政策満足度の特性を明らかにするために、類型ごとに回答者の各因子得点の平均値を算出し、折れ線グラフで示した（図 4.4）。

類型 1 は 85 人（20.4%）で構成され、他の類型と比較し、全ての因子において因子得点平均値が最も高いことから施策高満足型と命名した。類型 2 は 253 人（60.7%）で構成され、全ての因子において因子得点平均値 0 に近い値を示していることから施策中満足型と命名した。類型 3 は 79 人（18.9%）で構成され、他の類型と比較し全ての因子得点平均値が低い特徴を持つため、施策低満足型と命名した。

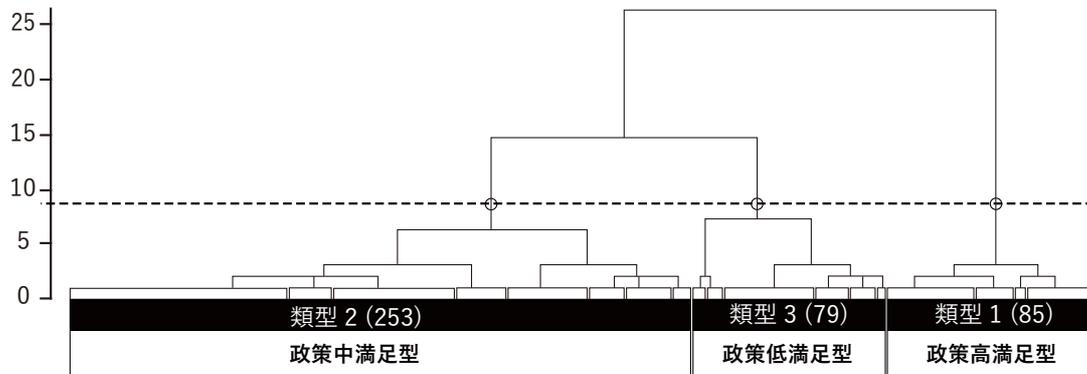


図 4.3 政策満足度のクラスター分析によるデンドログラム

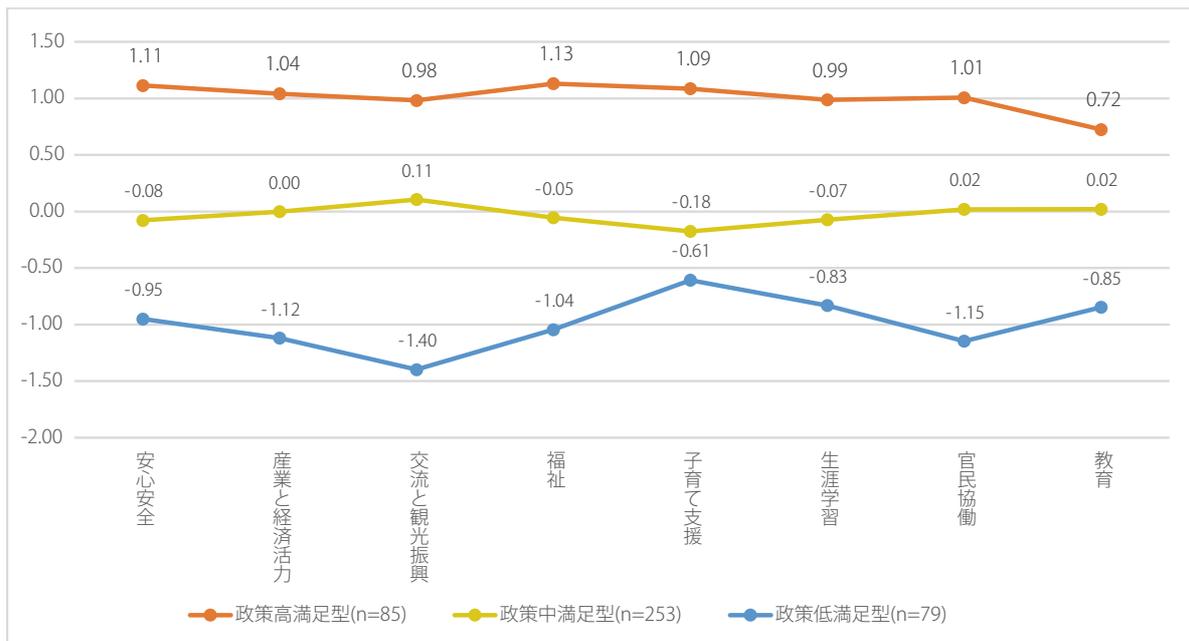


図 4.4 政策満足度類型別因子得点平均値

4-5 政策満足度がシビックプライドに与える影響

4-5-1 シビックプライドと政策満足度の関係

シビックプライドと政策満足度の関係を明らかにするために、シビックプライド類型と政策満足度類型とのクロス集計を行い、カイ二乗検定および残差分析を行った(図 4.5)。なお、欠損の見られた 20 人は分析対象から除外した。

その結果、高シビックプライド型は政策高満足型の割合が $p<0.01$ で有意に多く、政策低満足型が $p<0.05$ で有意に少なかった。中シビックプライド型は、政策中満足型が $p<0.05$ で有意に多く、政策低満足型が $p<0.05$ で有意に少なかった。低シビックプライド型は、政策低満足型の割合が $p<0.01$ で有意に多く、一方で政策高満足型および政策中満足型の割合が $p<0.05$ で有意に少なかった。

次に、シビックプライド類型別に政策満足度の項目ごとの平均値を比較するために、折れ線グラフ(図 4.6)を作成した。その結果、いずれの項目でも、シビックプライドが高い類型ほど政策満足度が高かった。また、どの政策がシビックプライドの高低に影響を与えているかを分析するために、高シビックプライド型と低シビックプライド型の平均値の差を算出した。その結果、最も平均値の差が大きかったのは、「28.開かれた市政の推進」(± 0.73)で、次いで「9.上下水道整備」(± 0.67)「3.地域ブランド振興」(± 0.62)「26.男女共同参画の推進」(± 0.60)の 3 政策も平均値差が 0.60 以上と大きい。さらに、「14.観光の振興」(± 0.58)「16.移住定住の促進」(± 0.55)「29.自治体経営の確立」(± 0.55)「7.魅力的な市街地形成」(± 0.54)「27.人権の尊重」(± 0.54)「25.市民行政協働の推進」(± 0.53)「12.交通体系の充実」(± 0.52)「13.地域情報化の推進」(± 0.51)「43.高齢者福祉の充実」(± 0.51)の 9 項目も同様に 0.50 以上の差が見られた。上記 13 項目のうち、5 項目(25.26.27.28.29.)は「官民協働」因子の因子負荷量が高い項目であり、また 5 項目(7.12.13.14.16)は「交流と観光振興」因子の因子負荷量が高い項目であることから、これらの因子がシビックプライドの高低に影響を及ぼしている可能性が示唆された。

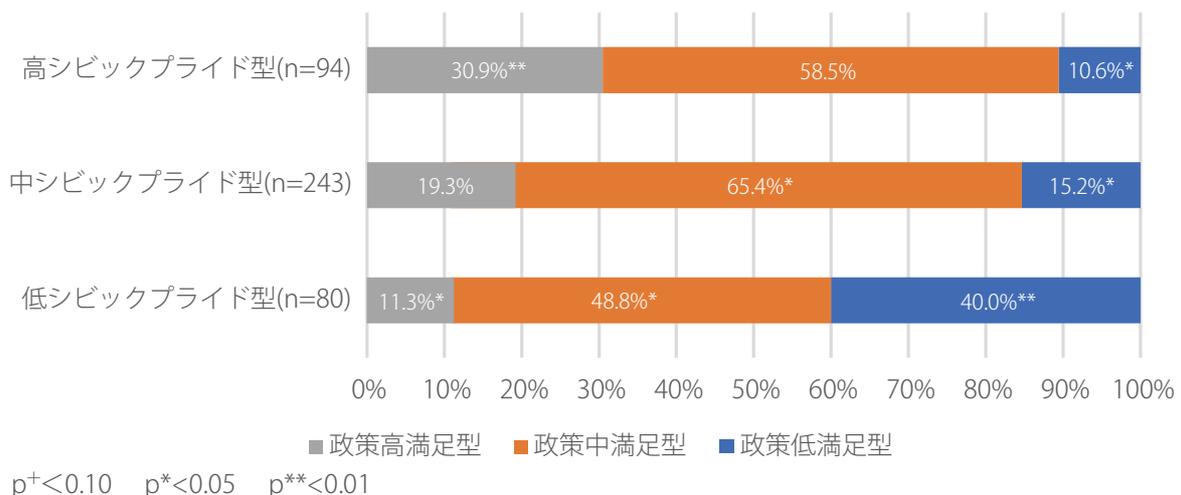


図 4.5 シビックプライド類型別政策満足度類型の割合

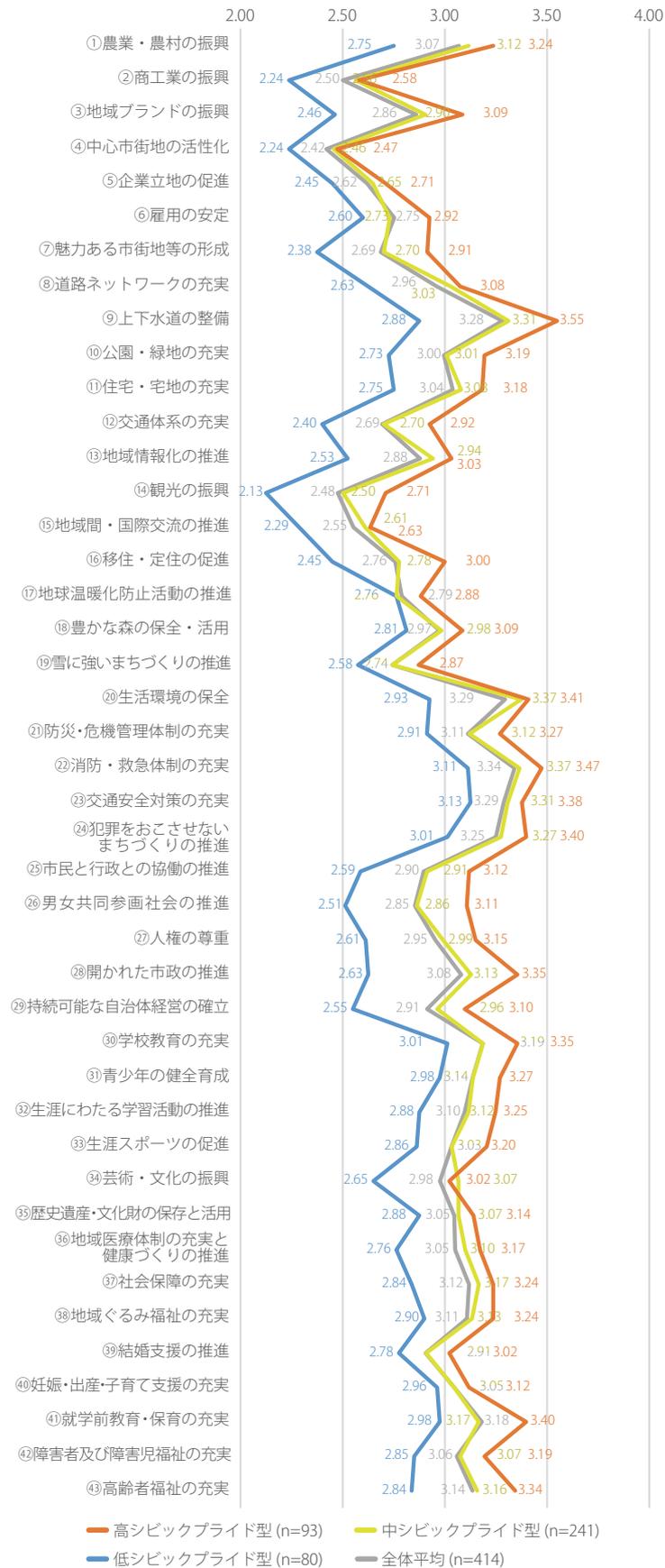


図 4.6 シビックプライド類型別政策満足度

4-5-2 シビックプライドと政策満足度の各構成要素の関係

政策満足度の8つの構成要素が、シビックプライドの3つの構成要素に及ぼす影響について探索するため、因子得点を用いて各因子間の相関分析を行った。因子間の相関を表4.7に示す。これによると、すべての政策満足度因子とシビックプライド因子の間に低い正の相関が認められた。また、「交流と観光振興」因子と「官民協働」因子は、「アイデンティティ」因子と低い正の相関が認められた。さらに、政策満足度因子のうち「子育て支援」因子以外の7因子において、「持続願望」因子と正の相関が認められた。

表4.7 シビックプライド因子と政策満足度因子の相関分析結果

		シビックプライド因子			
		愛着	参画	アイデンティティ	持続願望
政策満足度因子	安心安全	.317**	.088	.174**	.286**
	産業と経済活力	.350**	.117*	.160**	.241**
	交流と観光振興	.330**	.115*	.211**	.226**
	福祉	.327**	.096	.162**	.263**
	子育て支援	.281**	.022	.062	.177**
	生涯学習	.220**	.105*	.110*	.200**
	官民協働	.377**	.165**	.242**	.296**
	教育	.296**	.072	.138**	.205**

** p<0.01 * p<0.05 (片側)

4-5-3 シビックプライドと政策満足度の構造モデルの推定

以上の分析結果を踏まえ、共分散構造分析を用いて、シビックプライドと政策満足度の構造モデルを推定した。既往研究により、シビックプライドの構成要素間の関係は、愛着からアイデンティティと持続願望に、アイデンティティから参画に影響を及ぼすことが示されていることから、それぞれのパスを仮定した。また、相関分析の結果より、低い正の相関が見られた政策満足度因子からシビックプライド因子へのパスを仮定した。以上の仮説構造モデルを図 4.7 に示す。

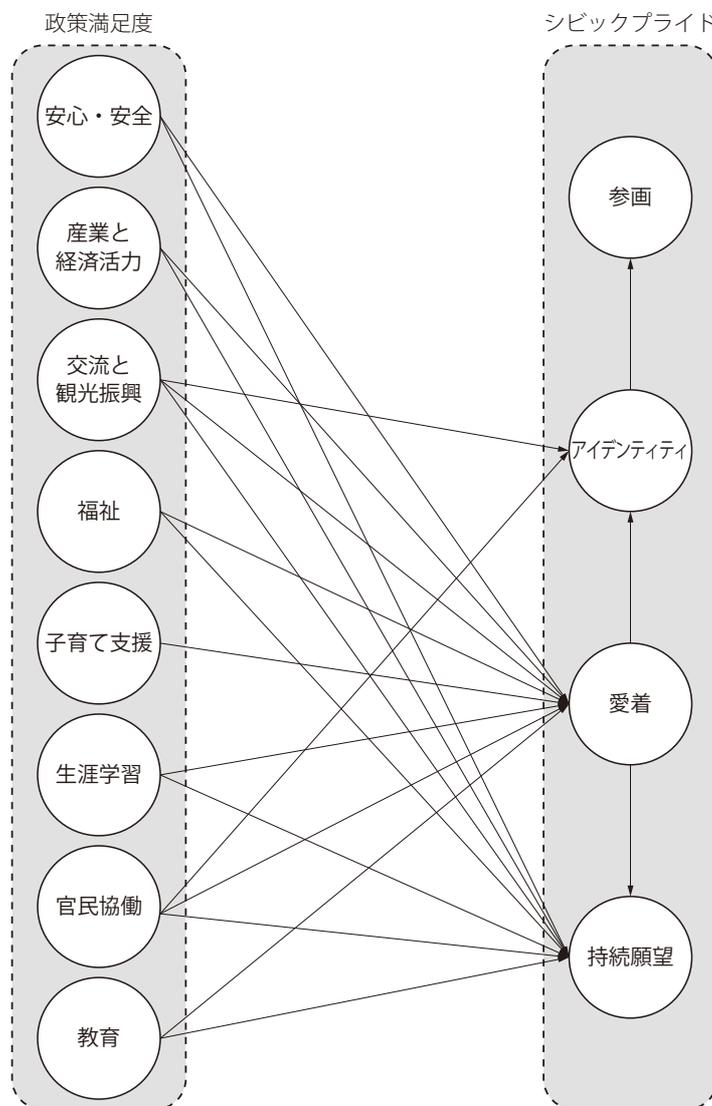


図 4.7 シビックプライドと政策満足度の構造モデル (仮説)

図 4.7 の仮説に基づき、パス係数が 5%水準で有意となるよう探索的に推定を行い、モデルの適合度が高くなるものを採用した(図 4.8)。モデルの適合度を表す指標は、GFI=0.819、CFI=0.852、RMSEA=0.070 であった^{注 3)}。なお、図中の数値は標準化係数を示し、誤差項は省略した。教育、官民協働、交流・観光振興の3つの要素から愛着に向けた因果パスが確認され、標準化係数を見ると官民協働から愛着に向けた因果パスが最も大きく、次に交流・観光振興で、教育が最も小さい結果となった。一方、安心安全、産業と経済活力、福祉、子育て支援、生涯学習からシビックプライドの各構成要素への因果パスは確認できなかった。

最も標準化係数の大きい官民協働と関連のある観測変数に着目すると、「26.男女共同参画社会の推進」、「27.人権の尊重」、「25.市民と行政との協働の推進」、「29.自治体経営の確立」、「28.開かれた市政の推進」であり、これらはすべてまちづくりの基本目標 4「市民と行政が協働して自治体経営を支えるまち」の政策である。すなわち、市民行政の協働や人権の尊重などの政策に対する満足度が高いほど愛着が醸成されており、市民の市政への参加機会の拡大や情報公開、男女共同参画推進体制の充実、人権教育・啓発の推進といった施策の実施が、シビックプライドの醸成に効果的であると考えられる。

次に標準化係数の大きい交流・観光振興と関連のある観測変数に着目すると、「7.魅力ある市街地形成」、「10.公園緑地の充実」、「11.住宅地の充実」、「12.交通体系の充実」、「13.地域情報化の推進」、「14.観光の振興」、「15.地域間国際交流の推進」であり、これらはまちづくりの基本目標 2「人をよびこむ都市空間と多彩な交流でにぎわうまち」の 10 の政策のうちの 7 つである。すなわち、魅力ある都市空間の形成や観光振興、地域間・国際交流などの政策に対する満足度が高いほど愛着が醸成されており、魅力的な市街地整備の推進や観光資源の整備・活用、地域間・国際交流の推進などの施策の実施も、シビックプライドの醸成に効果的であると考えられる。

最も標準化係数の小さい教育と関連のある観測変数に着目すると、「30.学校教育の充実」と「31.青少年の健全育成」であり、これらはまちづくりの基本目標 5「人をすこやかにほぐくむ教育と歴史文化がいきづくまち」の 6 の政策のうちの 2 つである。すなわち、学校教育の充実や青少年の健全育成の政策に対する満足度が高いほど愛着が醸成されており、学力や心身を育む教育の推進や健全な育成環境の整備などの施策の実施も、シビックプライドの醸成に効果的であると考えられる。

シビックプライドの各構成要素の関係は既往研究⁴⁾を支持する結果となった。すなわち、地域に対する愛着が高まるとアイデンティティと持続願望が形成され、さらにアイデンティティを持てる地域に対して参画するというルートがあると考えられる⁴⁾。また、愛着から「5.小矢部市にずっと住みたい」に因果パスが確認でき、標準化係数も 0.705 と非常に高いことから、愛着形成が定住意識を高めると考えられる。

以上より、官民協働による自治体経営、魅力ある都市空間の形成と観光振興、学力や心身を育む教育の推進等の政策への満足度を向上させることで、地域への愛着が高まり、特に官民協働に関する政策の影響度が高いことが明らかとなった。また、愛着が高まった結果、アイデンティティと持続願望が形成され、さらにアイデンティティを持てる地域に対して参画することが明らかとなった。

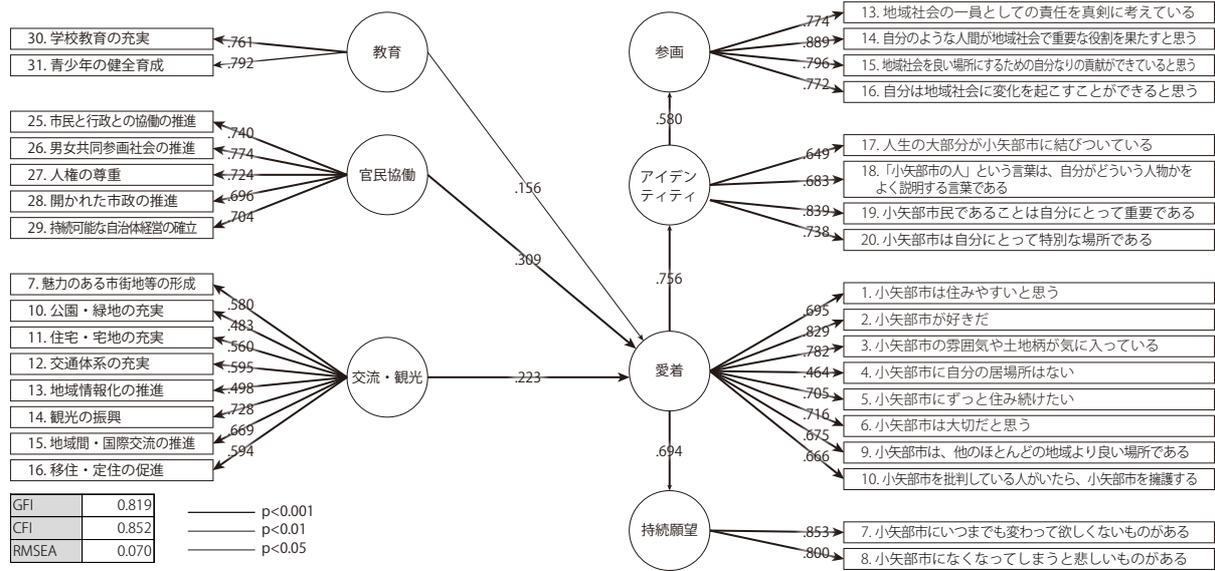


図 4.8 シビックプライドと政策満足度の構造モデル (推定結果)

4-6 考察

これまでの分析結果を総合的に考察する。まず、性別について着目すると、男性の方がシビックプライドが高かった。これは、男性の方が地域参画に関する項目が高かったことが影響していると考えられる。2017年に小矢部市が実施したアンケート調査によると、小矢部市民の44.5%が女性の意見が政治・行政に反映されていないと考えられており、その理由として、「社会の仕組みが女性に不利である」(44.4%)と回答した人が最も多かったことから⁵⁾、女性の地域社会における立場や仕組みが十分でないことが推察される。「男女共同参画社会の推進」に対する政策満足度は2.85と比較的低かったが、共分散構造分析の結果から、男女共同参画社会を推進することは地域愛着の形成につながり、その結果、アイデンティティと参画の向上につながることから、女性の地域社会における活躍の場や機会を創出する政策を推進することで、地域愛着、参画意識が高まり、シビックプライドの醸成が期待できる。

居住年数については、年数が長いほどシビックプライドが高かった。Brown et al(3)は居住年数の長さが地域への愛着形成に影響を与えることを指摘しており、これは居住年数が長ければそれに応じて地域の良さにふれる機会が増加するためだと考えられる。地域愛着はシビックプライドの構成要素の一つであるため、長く居住することで愛着が形成され、シビックプライドの醸成につながると考えられる。また、高齢者の方が若者と比べてシビックプライドが高いことは、一般的に高齢者の方が居住年数が長いと推察される。しかし、地域への愛着醸成が定住意識につながることを踏まえると、いかに若者のシビックプライドを醸成するかが、人口減少時代における人口定住に向けた自治体施策として重要であると考えられる。

また、小矢部市外への居住経験や通勤・通学先が小矢部市内であるかどうかは、シビックプライドの高低との関連が確認できなかった。他地域での生活経験による地域間比較が小矢部市の魅力を認識するきっかけになることも考えられるが、必ずしもそのことがシビックプライドの醸成につながるわけではないと考えられる。

共分散構造分析の結果から、教育、官民協働、交流・観光振興の3つの政策の満足度を高めることが、シビックプライドの醸成に有効である可能性が示唆された。特に、官民協働と交流・観光振興の2つの影響度が高く、市民の社会参画や市外の人との交流がシビックプライドの醸成に有効であると考えられる。また、社会参画による満足度が地域愛着を高め、その結果として参画意識が高まり、さらに地域愛着の醸成につながるという好循環が生まれる可能性が示唆された。

5 調査研究に基づく提言

高校生を対象としたワークショップでは、高校生の地域愛着醸成のためには、帰りに地域の多世代の人と交流ができ、高校生の居場所ともなりうる場をつくるのが効果的である可能性を示唆した。さらに、小矢部型地域愛着形成プログラムを開発する上では、ただプログラムを用意してそこに高校生に参加してもらうという提供型の方法ではなく、高校生を対象としたワークショップを開発のプロセスに取り入れ、企画段階から高校生の関わりをつくることで、主体性を育てながら進めていくことが重要であることを明らかにした。

また、小矢部市の総合計画で定められた各政策への市民満足度がシビックプライドに与える影響を検証した結果、官民協働による自治体経営、魅力ある都市空間の形成と観光振興、学力や心身を育む教育の推進等の政策への満足度を向上させることで、シビックプライドが醸成するという因果関係を統計的に明らかにした。さらに、若者のシビックプライドを醸成することが、人口減少時代における人口定住に向けた自治体施策として重要であることを指摘した。

以上のように、豊かな都市空間の形成や教育の推進がシビックプライドの醸成において重要であり、さらにシビックプライドの醸成が定住意識の形成において有効であることから、石動駅前商店街等の中心市街地を対象とした豊かな都市空間の形成に寄与すると考えられる場づくりを、高校生が主体となって企画・実践する教育プログラムの開発が、人口の流出抑制及び転入促進に対する有効な施策として考えられる。特に、住民主体によるまちづくりのような社会参画や協働がシビックプライドの醸成において最も影響度が高いことを踏まえると、地域課題解決型の教育プログラムを市民（例えば、商店街振興会やNPO等）と高校生が協働して実施できるような体制を検討することで、市民と高校生の両者のシビックプライド醸成が期待できる。教育プログラムの内容としては、ある程度の枠組みを設定しつつも、参加者が検討する余地を残し、市民と高校生を対象とした連続ワークショップを通して、プログラムを考案することにより、主体的な活動が期待できる。札幌市立高校学校間連携プログラム「まなびまくり社」は参考になる⁶⁾。

一方、課題としてはそうした教育プログラムを企画・運営する上で、予算や専門的知見・ノウハウが必要であることが挙げられる。氷見市では、地域おこし協力隊の制度を活用し、市内高校の教育魅力化コーディネーターを雇用しており、一定の成果が見られる。このように国の制度を活用し、外部人材を雇用する方法や、ノウハウを持つ大学や企業等との連携が有効であると考えられる。

6 課題解決策の自己評価

本研究の目的は、高校生を対象としたワークショップとアンケート調査結果をもとに、人口の流出抑制及び転入促進に対する有効な施策を提案することであり、調査研究結果に基づく提案をすることができたと考えられる。また、小矢部市の各政策に対する市民満足度が市民のシビックプライドに与える影響を統計的に明らかにした本研究成果は、これまでに着目されていなかった点であると考えられ、今後、小矢部市が政策を検討していく上で貴重な資料となりうる。

ワークショップについては、高校生と市民を対象に 3 回実施する計画を立てていたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況から、高校側と相談し、高校生のみを対象に 1 回開催するのみとなった。1 回あたりの時間を長くし、ワークショップの内容・構成を工夫することで、有用な知見を得ることができたが、高校生と市民を対象に 3 回連続で実施することができれば、より多角的かつ実現可能性の高い知見を得られたと考えられるため、今後の課題である。

謝辞

ワークショップにご協力頂いた石動高校の関係者の皆様と生徒の皆様、アンケートにご協力頂きました小矢部市民の皆様に感謝の意を表します。

補注

- 注1) KMO のサンプリング適切性基準は、観測相関係数の大きさと偏相関係数の大きさを比較する指標で、標本の適切性を判断する。一般的に 0.5 以下は不十分であり、数値が高いほど良い結果である。
- 注2) Bartlett 球面性検定では、変数間に相関があるかどうかを検定し、因子分析を行う適合性があるかを判断する。有意であれば変数間に相関があり、因子分析を行うには妥当であるといえる。
- 注3) 適合度は一般的に GFI が 0.9 以上、RMSEA は 0.05 以下であれば当てはまりが良いと判断される。本研究で得たモデルの適合度は、この基準を満たさない値であったが、既往研究⁷⁾に倣い、全変数間で統計的に有意なパス係数が推定されていることから、地域愛着の形成に関する因果関係を大筋捉えていると判断した。

参考文献

- 1) 引地博之,青木俊明,大淵憲一:地域に対する愛着の形成機構-物理的環境と社会的環境の影響-,土木学会論文集D, 65(2),pp.101-110, 2009
- 2) 齋藤嘉克,佐藤宏亮:若年層の U ターンを促進する要因とその形成プロセスに関する研究-奄美大島龍郷町秋名・幾里州略を対象として-,都市計画論文集,Vol.54,No.3,pp.1424-1429,2019
- 3) 藪谷祐介,阿久井康平:高校生の通学時における地域接触が地域愛着形成に与える影響-富山県小矢部市内の高校に通学する高校生を対象として,日本都市計画学会 都市計画論文集,Vol.56,No.3,pp.772-779,2021.10
- 4) 伊藤香織:シビックプライドの源泉としての都市環境及び諸要素-富山市中心市街地と富山地域を事例として,日本都市計画学会 都市計画論文集, 54 巻 3 号 p. 615-622,2019
- 5) 小矢部市男女共同参画プラン(第 2 次)改訂版,2018.3
- 6) 札幌市立高校学校間連携プログラム「まなびまくり社」ホームページ:<https://manabimakurisya.com>
- 7) 國光洋二(2007) 地域活性化を通じた農村振興施策の効果に関する分析:共分散構造分析による接近,農村計画学会誌, Vol.25, No.4, pp.533-543